

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果(○)と課題(▼)	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
【教育方針】 ※真理を求め正義を愛する心身の健全な人となること(健全) ※進取敢為の性と明朗闊達な風とをもつ人になること(明朗) ※敬愛と誠実の心をもって社会に生きる人となること(誠実)	【成果】 ○コロナ禍で、感染防止対策を講じながら内容を工夫し、ほとんどの学校行事を実施することができた。 ○オーストラリアの姉妹校であるキングス校とオンライン交流を実施、セントフランシス校と手紙のやり取りをするなど、交流活動を継続できた。 ○総合的な探究の時間で行った教育活動やパフォーマンス課題を他教科の授業で、その手法を活かすことができた。 ○定期的にスクールカウンセラーも含めた教育相談会議を開催し、情報共有に努め、個々の生徒への対応を検討し、組織的にバックアップできる態勢を強化できた。 ○トイレの改修に合わせて洋式化、乾式化ができた。継続して校舎の改修工事を行い、学習環境の改善ができた。 【課題】 ▼目標として募集定員を満たすことを掲げていたが、結果的に定員を満たせなかった。小中高との連携を強化し、地元の生徒が本校に目を向ける機会を増やし、本校の特色や在校生の様子が知ってもらい、効果的な広報を検討する必要がある。 ▼本校の特色である国際理解教育において、留学生の受入や海外留学への参加等が実施できなかった。今年度は、規制が緩和され留学生の受入を行う予定であるが、長期の中止期間が再開に影響する不安が残る中、海外高校生との交流を成功させる必要がある。	【育てたい生徒像】 『主体的に学び考え、多様な人とつながり、新たな価値を生み出し、社会に貢献する生徒の育成』
【教育目標】 Global&Aware(世界へ、思いやりをもって)		1 充実した学校生活 (1) わかりやすく、知的好奇心を高める授業及びICTを活用した授業を通じた学力向上への取組の推進 (2) 探究活動及び国際理解教育の充実 (3) 楽しい学校行事や部活動の運営と、それらに生徒が主体的に取り組む態度の育成 (4) 社会生活で必要となる資質・能力を身につけるための指導・支援 (5) 安心・安全を感じられるホームルーム運営と信頼できる担任・教職員との関係の構築
【教育指導の重点】 1 中高一貫教育の充実 2 特色ある学校づくりの推進 3 学力の充実と進路希望の実現 4 生徒指導の徹底 5 人権教育及び道德教育の推進 6 国際理解教育の推進 7 教育相談及び特別支援教育の推進		2 地域に信頼される開かれた学校 (1) 積極的な情報公開・情報交換による中学校や地域との連携の推進 (2) 様々な学校教育活動の様子がわかり学校の特色が見える広報の展開 (3) 地域の力を教育活動に取り入れるとともに地域の活性化を推進

評価領域	重点目標	具体的方策	中間	評価	成果と課題	次年度に向けての改善点
組織・運営	中高一貫教育の充実	高等学校と附属中学校がさらに連携を深め、6年間を通した指導計画及び指導体制のもと教育内容を充実させ、附属中学校の志願者増を目指す。				
	国際理解教育の推進	オーストラリア姉妹校等との連携強化、来日受入を再開し、来年度以降に計画しているオーストラリアへの語学研修の準備を進めるとともに、探究学習を柱とした「園部式グローバル教育」を推進する。				
	特色ある教育内容の発信	パンフレット、ポスター、ホームページ、For the FUTURE、学校説明会等を十分に活用して、園部高校の魅力ある情報を発信し、募集定員を満たす。				
学習支援	学習習慣の定着	予習・授業・復習等、日々の学習を通して家庭学習や自主学習の習慣を身につけさせ、基礎学力の定着を図るとともに、継続させる。				
	学力の向上の取組	コースの特色に応じた課題を設定し、言語活動を充実させるとともに、コミュニケーション能力の向上を図り主体的に学習に向かう姿勢を養う。				
	新学習指導要領に即した授業改善	パフォーマンス課題の効果的な設定や観点別評価を意識した授業を計画し、授業改善に繋げる。				
	ICT教育の充実	BYODに対応したタブレットの有効な活用を進めるとともに、わかりやすく、知的好奇心を高める授業を通して学力向上を図る。				
生徒支援	基本的な生活習慣の確立	複数回の朝の遅刻や授業の無断欠課に対して個別指導を行い、規則正しい生活習慣が身に着けられるよう指導し、落ち着いて授業を受けられる環境をつくる。				
	生徒指導の徹底	問題事象や問題行動の未然防止と早期発見・早期対応ができるよう教職員の指導体制づくりを進め、適切な指導を行う。				
	教育相談・特別支援教育の推進	教育相談会議を中心に、個別の生徒の支援を検討し、改善に繋げる。また、必要に応じて積極的に外部機関と連携し、支援が円滑かつ効果的に進むよう努める。				

評価領域	重点目標	具体的方策	中間	評価	成果と課題	次年度に向けての改善点
進路支援	コースの特色を踏まえ、個に応じた適切な進路支援	生徒の状況や課題を踏まえ、進路に関わる行事や説明会等を適切なタイミングで計画し、最大限の効果が得られるように実施する。また、模擬試験や各種アセスメントのデータ分析を行い、適切な進路指導に繋げる。				
	生徒の主体的な行動を促す進路支援	多様な進路に対応する情報を収集し、生徒一人一人がこだわりを持った主体的な進路選択ができるよう、その実現を図る支援を充実させる。				
	高大接続、新入試制度研究の継続	今後とも変化する入試制度や高大接続が円滑に進むよう最新の情報収集を行い、生徒・保護者等に発信する。				
人権教育	人権教育の推進	多様な生徒の背景に目を向け、すべての生徒の人権を守り、生徒の学びを支援する。また、人権学習を通して、現在の人権問題の知識をつけさせるとともに情報を正しく判断できる力を身につけさせる。				
	人権意識の高揚	すべての教育活動を通して、人権を尊重する心を育む。また、多様性を認め合える意識の醸成を図る。				
図書館活用	読書活動啓発のため、広報や図書館行事の企画運営を効果的に行う。	授業・調べ学習・学校行事等で活用できる資料の収集と提供を行う。また、図書委員会を中心としたイベントの企画運営を行い、図書活用を促す図書資料の紹介広報に努める。				
健康・安全教育	健康教育の充実	本校生徒の健康課題(体の健康と心の健康)に応じた健康教育を推進する。				
	感染症対策の継続	感染症に関する正しい知識を共有し、教育活動のあらゆる場面で注意喚起を行い、校内でクラスターの発生を起こさないよう努める。				
管理	企画、立案及び連絡調整	効果的な学校運営を行うよう企画、立案を行い、生徒募集に繋がるような適時、適切な予算執行に努める。				
	学校環境の整備	老朽校舎の改善対策と、必要な備品の充実、校内美化に向けた対策と実行に努める。				
家庭・地域連携	家庭や地域社会との連携の強化	家庭・地域社会との適切な連携に努めると共に、小高・中高・高大連携の充実を図るとともに地域の活性化に向けた取組を行う。				
学習環境 安全管理	安心・安全で充実した教育活動のための施設設備の充実	校舎や設備の安全を確保し、生徒の学習環境の向上に繋がる施設設備の充実を図る。				
学校関係者 評価委員会 による評価						
次年度に向けた改善の方向性						